

六郷満山日本遺産推進協議会 第2回 総会



実寸大無明橋レプリカ(左上)／鬼朱印・不動朱印に使用する印(右上)
大分空港でのブース(左下)／おにぎりコンテスト(右下)

日 時：令和元年 5月 8日(水) 14時00分～

場 所：豊後高田市役所 コスモスホール

3 議事

(1) 第1号議案 平成30年度事業報告

1. 情報発信・人材育成事業

事業① 日本遺産特設ホームページ作成事業

日本遺産のストーリー・構成文化財に関する情報を多言語（英語・仏語・中国語【繁体字・簡体字】・韓国語）で紹介するホームページを開設した（日本語 2/8～、多言語 3/29～）。URLは（<https://www.onie.jp>）。

クラウドファンディングを運営できるプラットフォームについても開設し、システム上はEC（ネットショップ）の構築も完了している。

連動して、SNS（Facebook、Twitter）を開設し、効果的なPRを推進する。



特設HP・トップページ



Facebook ページ

事業② BS-TBS『日本遺産』制作事業

日本遺産をテーマにした番組・動画コンテンツを同時に行う事業。

本放送は12/23に放送があり、4K映像による映像はDVDとして納品された。3分間にリサイズされた動画は、英語・仏語・中国語（繁・簡）・韓国語に対応しており、それぞれYouTubeにアップロードを行った。

また、TBSにおいて番組を追加ロケ・再構成した『彩 日本遺産(BS-TBS)』が3/27に放送された。



DVD 納品状況



Youtube アップロード状況

事業③ 「くにさき」の鬼を活用するためのデザイン開発事業

デザイン開発については、3つのパートに分けて事業を行った。

A ロゴマークのコンペ

9/11～10/11 の期間で募集を行い、271 点の応募があった。10/24 にデザイン協会があらかじめ選考した 11 点から、優秀賞の選定を行おうとしたが決定できず、5 点に絞ってブラッシュアップをデザイナーにお願いした。11/8 に再度選考を行い、優秀賞作品を決定した。

公表の方法については、認定記念シンポジウムの中で発表することで、新聞掲載回数などを増やすことができた。

ロゴマークは、通常の縦長のものとロゴ横長のもの（ホームページなどで使用）、英語併記のものを用意し、商標登録を行うなど、日本遺産及びエリア内の物産等のPRにも活用できるようにした。



ロゴマーク（英語併記）

B 御朱印帳及び御朱印の開発

「くにさき」の世界観をまとめたデザインの御朱印帳を作り、統一的なデザインの印を制作することで、「くにさき」の御朱印の付加価値を高める事を目的にプロポーザルを実施した。

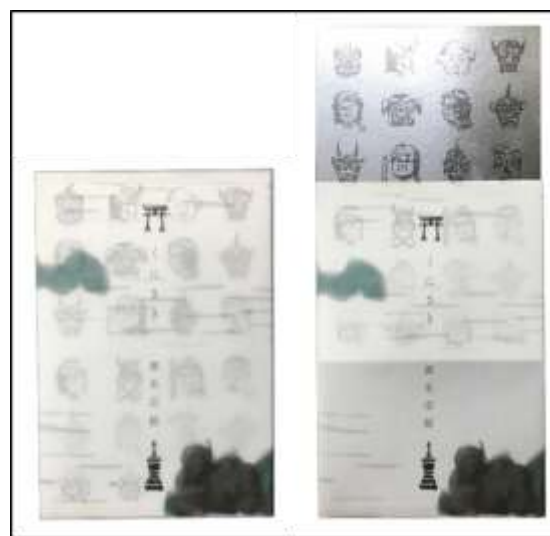
1/31 に行われたプロポーザル選考委員会により、デザイン及び活用方針（インバウンド対策を兼ねるなど）が決まり、2～3 月にかけて御朱印帳デザイン及び各寺院の印の制作に取り掛かった。

各寺院の印は今年度内に完成し、4/20 から実施される「春の限定御朱印」の際には、実際に印が捺された御朱印が授与される。

御朱印帳のデザインに関しては完成したが、印刷製本に時間がかかるため、平成 31 年度における事業で実際に生産を行う。9 月中には完成できるようなスケジュールを目指す。



各寺院の印



御朱印帳のサンプル

C 御土産のアイデアコンペ

御土産の種類が少ない「くにさき」において、日本遺産や鬼面などの意匠を活用したアイデア（実行権）コンペを実施した。実現性を重視した要項を制作し、1/20～2/28 にかけて募集を行った結果、21 点の応募があった。

小物系 2 点と食品系のアイデアを優秀賞とした。今後、事業の展開を検討する。



優秀作品「ONI=GAMI」（オニガミ）



募集要項トップデザイン

事業④ 「くにさき」の空の玄関口での日本遺産PR事業

「くにさき」における観光客等の流入の1つである大分空港を活用したPR事業を実施した。3/2～14にかけてブースの設置を行い、内2回（3/2、3/14）は、到着口において、日本遺産のパンフレット・荘園米を手渡しで配布した。



ブース設営状況

事業⑤ ツーリズムEXPOジャパン 2018 出展事業

旅行関係者が集まる最大のイベントであるツーリズムEXPOジャパン 2018 (9/20～23) において設営された日本遺産ブースに子出展を行った。

旅行関係者・学術関係者向けに、日本遺産の取組の紹介をするプロフェッショナルセミナーの講師も行った。



プロフェッショナルセミナーの様子



日本遺産ブース設営の様子

事業⑥ 職人・達人を活用した人材バンク「〇〇の鬼」活用事業

日本遺産について解説できるガイドだけではなく、地域の職人・達人を「〇〇の鬼」として認定し、人材バンクを構築する事業とした。

事業①のホームページにおいて、クラウドファンディングの発案者となれる権利を付与するという構想ができたため、今年度以降も人材バンクの組織構築の準備を進める。

平成30年度は、ガイドの育成方法等について協議を行うためのワーキンググループを組織し、グループ会議を開催した。また、モデルコースの試運転として、地域人材向けの現地説明会を実施した。

その他、国東市歴史体験学習館において、講座・展示説明等を実施した。



左上：成仏寺
右上：長安寺
左下：岩戸寺
右下：学習館

2. 普及啓発事業

事業⑦ 日本遺産認定記念シンポジウム

日本遺産の認定を契機に、主にエリア内の市民に「くにさき」の鬼文化・日本遺産の取り組みを知っていただくために、11/24にシンポジウムを開催した。

講師として日本遺産審査委員会前委員長の稲葉信子先生、別府大学教授の段上達雄先生をお招きし、稲葉先生からは制度の詳細と可能性についてお話いただき、段上先生からは修正鬼会や「くにさき」の鬼文化について詳細に御講義いただいた。

パネルディスカッションでは、宇佐国東半島を巡る会より河野英信氏、漫画家アキヨシカズタカ氏、ガイドの後藤裕之氏をお招きし、日本遺産としての「くにさき」の展望について討論いただいた。



経過報告



講演1：稲葉先生



ロゴマーク発表



パネルディスカッションの様子

【その他、一般を対象にした講座の実績一覧】

- ・『鬼が仏になった里「くにさき」について』(7/18・富来高齢者学級) 講師：事務局 園田
- ・『鬼が仏になった里「くにさき」について』(7/26・真玉郷土研) 講師：事務局 松本
- ・『鬼が仏になった里「くにさき」について』(8/21・国東高齢者学級) 講師：事務局 吉田
- ・『鬼が仏になった里「くにさき」について』(8/28・三重の里) 講師：事務局 松本
- ・『鬼が仏になった里「くにさき」について』(8/31・高年この町) 講師：事務局 松本
- ・奈良文化財研究所 文化財担当者研修
『「くにさき」の景観保護・活用について』(9/12) 講師：事務局 松本
- ・『鬼が仏になった里「くにさき」』(9/20・ツーリズムEXPOジャパン) 講師：事務局 松本
- ・『日本遺産に関する現地見学会』(11/1・真玉郷土研) 講師：事務局 松本
- ・『鬼が仏になった里「くにさき」について』(12/16・地方史) 講師：事務局 松本
- ・シンポジウム 泉佐野市の文化財を日本・世界へ
『「くにさき」の文化財保護・活用について』(1/27) 講師：事務局 松本
- ・郷土の文化財探訪バスツアー
『日本遺産 鬼が仏になった里「くにさき」を巡る旅』(2/16) 講師：事務局 松本
- ・大分学守り人養成講座『国東半島の山の歴史と景観』(3/9) 講師：事務局 松本

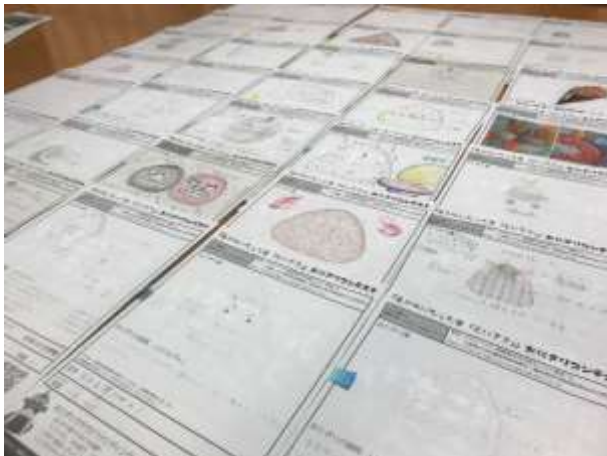
事業⑧ おにぎりクラウドファンディング応援 おにぎりコンテスト開催事業

「くにさき」エリアの協力店でおにぎりを食べる毎に、1個1円が寄附される新しいクラウドファンディングの取組である「おにぎりクラウドファンディング」を構築し、2/1よりスタートさせた。

現段階では、おにぎりクラウドファンディング協力店は20店舗であり、今後も協力店の拡大及び取組を通じた利用促進を目指していく。4/19段階で18,027円分が集まっており、今年度においても取組を推進する。

おにぎりの多様な商品開発を促し、取組の普及啓発を行うことを目的に「おにぎりコンテスト」を実施した。12～1月にかけて市内小中学校を中心に応募用紙を配布し、集まった445件の応募の中から、実現可能なものとして、コンテストに参加していただいた6店舗、1団体との協議により、入賞8作品を選定した。

入賞8作品においては、2/11の昼食時の「おにぎりコンテスト決勝」において、来場者の食べ比べ(投票)によって、グランプリを決定した。653個のおにぎりを用意していたが、僅か20分でチケットが売り切れてしまい、思わぬ盛況ぶりとなった。



445件集まったアイデアの一部



完成したおにぎり8種



コンテスト当日の様子



おにぎりクラウドファンディングの取組状況

事業⑨ 日本遺産小中学校出前講座

地域の未来を担うエリア内の小中学生等を対象に講座を実施し、日本遺産を通じて郷土愛を醸成する。今年度は、おにぎりコンテストの関係もあり、普段であれば対象になりにくい幼稚園等への普及啓発を行うこともできた。

【学校を対象とした講座の実績一覧】

- ・『私たちのまちの日本遺産』(6/27・戴星学園 7 年生) 講師：事務局 松本
- ・『君たちは郷土の風景をどう見るか?』(7/11・香々地中 1 年生) 講師：事務局 松本・大山
- ・『小学生の歴史・文化財探訪研修』(8/22・豊後高田各校代表) 講師：事務局 松本
- ・別府大学公開講座「九州学」第 2 講
『辺境からの発信! 「くにさき」の挑戦』(9/29・別府大学生) 講師：事務局 松本
- ・『日本遺産に関する講座』(12/10・武蔵東小 5・6 年生) 講師：外部講師
- ・『日本遺産と校区の文化財現地見学』(12/12・臼野小 4・5 年生) 講師：事務局 松本・岩男
- ・『田染の日本遺産を巡る』(12/13・田染小 6 年生) 講師：事務局 松本・岩男
- ・日本遺産鬼面づくりワークショップ(1/20・安岐、安岐中央幼) 講師：外部講師、事務局園田
- ・日本遺産鬼面づくりワークショップ(1/21・夢いろ幼) 講師：外部講師
- ・日本遺産鬼面づくりワークショップ(1/24・キラリいろ幼) 講師：外部講師、事務局松本
- ・『VR 無明橋を体験しよう!』(1/29・戴星学園 4~9 年生) 講師：外部講師
- ・花っこルーム香々地 節分ワークショップ(2/4) 講師：外部講師
- ・ON I カフェ(2/21・高田高校) 講師：外部講師、事務局松本



6/27 戴星学園



7/11 香々地中



8/22 豊後高田各校代表



9/29 別府大



12/13 田染小



12/10 武蔵東小



1/24 キラリいろ幼稚園



1/29 戴星学園



2/21 高田高校

事業⑩ 子ども版日本遺産ストーリーブック制作事業

小学校高学年～中学生を対象にしたストーリーブックを制作している。プロポーザルによって、絵本と図鑑をあわせた形式にすることで、絵本のストーリーの自由度を高め、図鑑によって文化の深層部分の理解に繋げるという方針で事業を進めることになった。

絵本のイラスト担当作家が、僧侶・イラストレーターの中川学氏に決定したが、作業量の問題もあり、2ヶ年での事業実施とし、平成30年度は図鑑部分の制作を中心に実施することにした。

鬼文化のない欧米圏において、世界共通語にもなっている英語・仏語への翻訳も実施し、ラグビーワールドカップ等の国際的なイベント時の情報発信にも役立てる。



日本語版の内容



英語版の内容

3. 調査研究事業

事業⑪ 日本遺産認定エリアとしての「くにさき」の観光客の嗜好性に関わる潜在力調査

インバウンドを含めた観光客の嗜好性を調査し、エリアの文化財の観光での潜在力を測る調査を実施した。簡単な選択肢や画像等を選択させる形式のWebアンケートによって、性別・年齢・国籍等における傾向を見ることで、観光メニューがどのターゲットに訴求できるかの検討を行った。

Webアンケートの結果から、国内外問わず、修正鬼会に対する興味関心が高く、日本遺産ストーリーは旅行客に広く訴求できるものであることが確かめられた。

国内旅行客においては、男性は宗教・哲学を想起させる資源への嗜好性が高く、女性は景観・ビジュアルに対する嗜好性が高い。ロングトレイルはその両方を兼ね備えた体験メニューであり、性別・年齢に関係なく訴求できるものである事が分かった。

インバウンドにおいては、当然国毎に条件が違うのだが、欧米系及び嗜好性が欧米よりのアジア圏(上海など)においては、国東半島の鬼の文化に対する関心が高く、ファームステイやロングトレイルといった体験メニューが訴求することが分かった。

それらの分析により、①住みやすさや、歴史・文化的資源、景観などの地域資源が明確である。②福岡に近く、地域資源と嗜好性が合致する欧米系を中心としたインバウンドへの訴求が可能である。③ラグビーワールドカップの機械を逃さず、情報発信・アウトドア環境整備を推進することが観光施策の効果を高められる。といった3つのポイントを活用し、国内では30～40代の男女に訴求できる体験メニューを開発し、「くにさきファン」を

4. 公開活用のための整備

事業⑬ 天念寺鬼会の里の拠点施設化のためのVRコンテンツ制作事業

文化庁からの指導（場所を絞ること、効果・運営上の検証を行うこと、陳腐化しない計画を挙げること）もあり、VR装置等による誘客促進のコンテンツ制作については、確実な効果が見込めることから、天念寺耶馬無明橋のVRのみを制作することにした。

プロポーザルにより、陳腐化しない手法の1つに無明橋の実寸大のレプリカを制作することとなり、VRコンテンツとあわせて、鬼会の里歴史体験学習館で公開している。



撮影時の様子



VRゴーグル設置状況



実物大無明橋のレプリカ



VR無明橋の体験の様子

事業⑭ 鬼会面等展示施設整備事業

公開活用に資するレプリカを3点制作した。

1点は、国東市飯塚遺跡出土の木簡【県指定有形文化財】で、保存の観点からほとんど公開活用できていない史料であったため、今回のレプリカ制作によって、多くの人にその価値を知ってもらう機会を創出できる。

残り2点は、天念寺の鬼面で、こちらもイベントの時などには、実際に触れたり、被ってみたりできるようなレプリカとしている。



事業⑮ 日本遺産看板設置事業

日本遺産の認定を多くの人に知ってもらうために、国道沿い2箇所（豊後高田・国東1箇所ずつ）に看板を設置した。



豊後高田市設置看板(岩崎交差点)



国東市設置看板（武蔵・国道沿）

5. その他の事業

事業⑯ ストーリーパンフレット制作

ストーリーの普及啓発を目的にパンフレットを制作した。単価を抑えたA3折込タイプとし、各イベント・観光地等で20,000部ほど配布した。

三角柱に折り、スタンドポップとして、各食堂・事業所等に置きやすいようなデザインとした。



事業⑰ おにぎりクラウドファンディング

エリア内の協力店で“おに”ぎりを食べると、1円ずつ寄附される「おにぎりクラウドファンディング」を2/1より開始した。

5/8 現在で、協力店は19店舗、寄附19,027円が収集できている。

事業としての反響は大きく、地域全体の活性化・郷土愛醸成にも繋がる事業として、今後も継続し、全市民的な取り組みとして定着することを目指す。

